

センサエキスポ2009  
IPv6・センサネットワークワーキングコンソーシアムセミナー  
パネルディスカッション

# ユビキタス時代のサービスと センサデータ・シェアリング

2009年4月8日

IPv6・センサネットワークワーキングコンソーシアム 運営委員  
株式会社ユビテック 代表取締役社長 荻野 司

コンソーシアム事務局メール: info@ipv6sensor.net

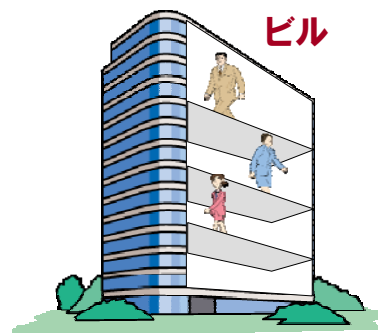
1

## ユビキタスサービス実現のためのセンシング

- 「いつでも」、「どこでも」、「誰にでも」サービスを行うために、  
「その時」、「その場所」、「その人」のデータをセンシング
  - ユーザの現在の行動をセンシング
  - その設備の現在の稼働状況をセンシング
  - 周辺環境の現在の状況をセンシング etc.



自動車



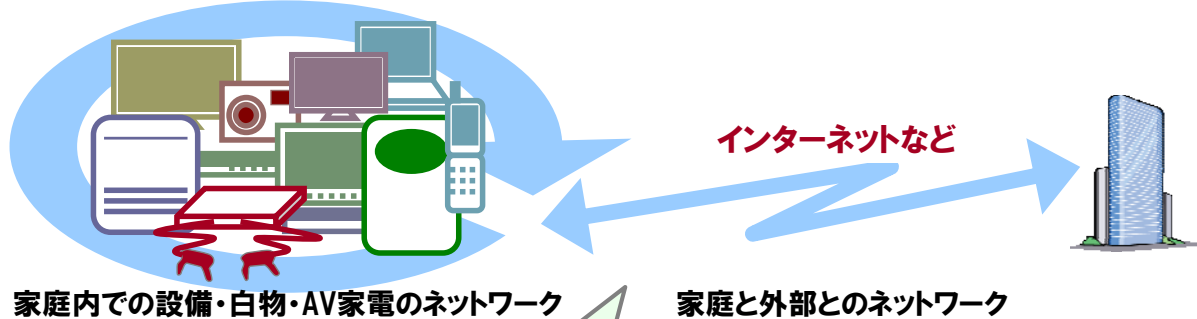
家庭



# センシングにおける課題

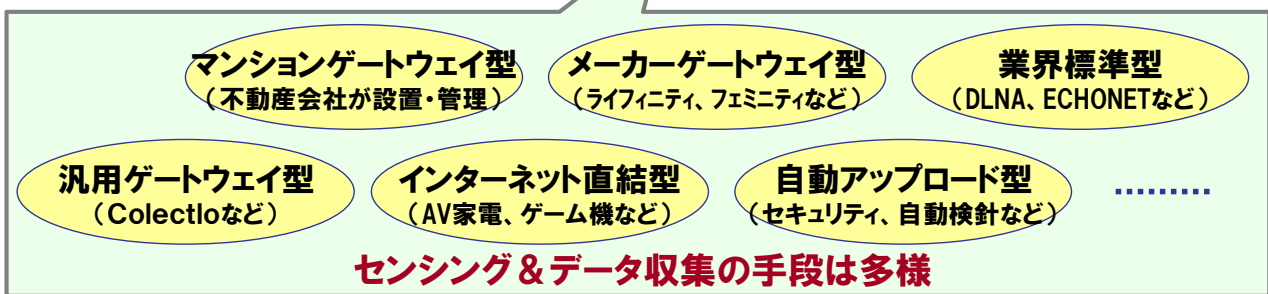
- 例えば家庭では、多様な企業が多様な方法でセンシング
  - >統合的なセンシングは困難

宅内LAN、Bluetooth、ZigBeeなど



家庭内での設備・白物・AV家電のネットワーク

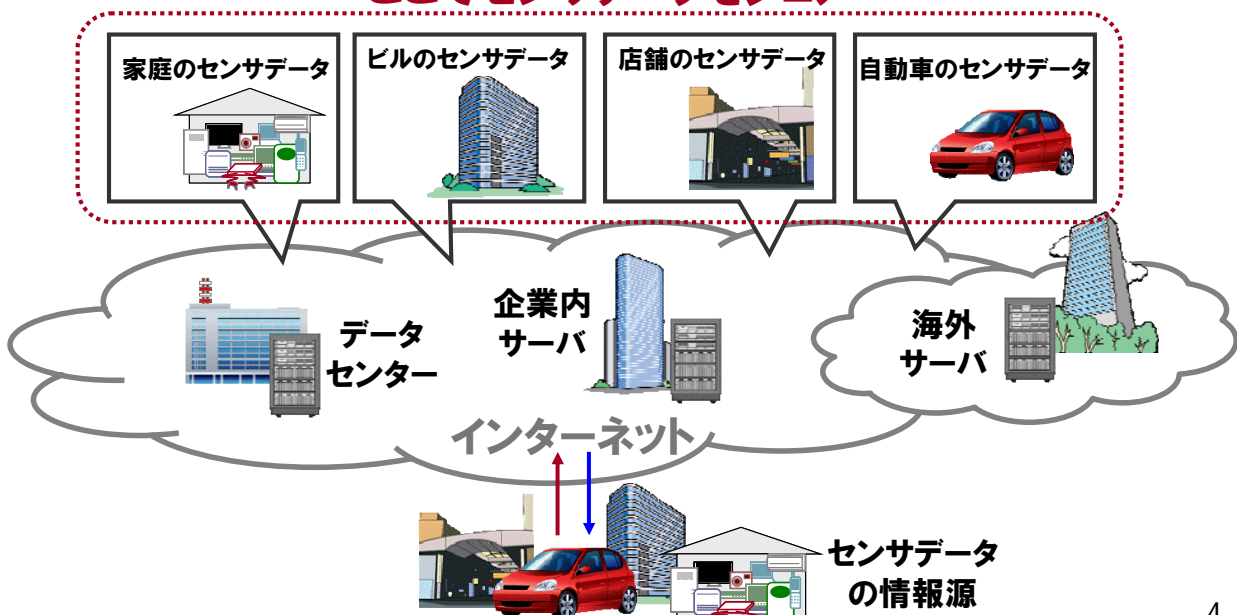
家庭と外部とのネットワーク



# そこで、クラウド上でデータシェアリング

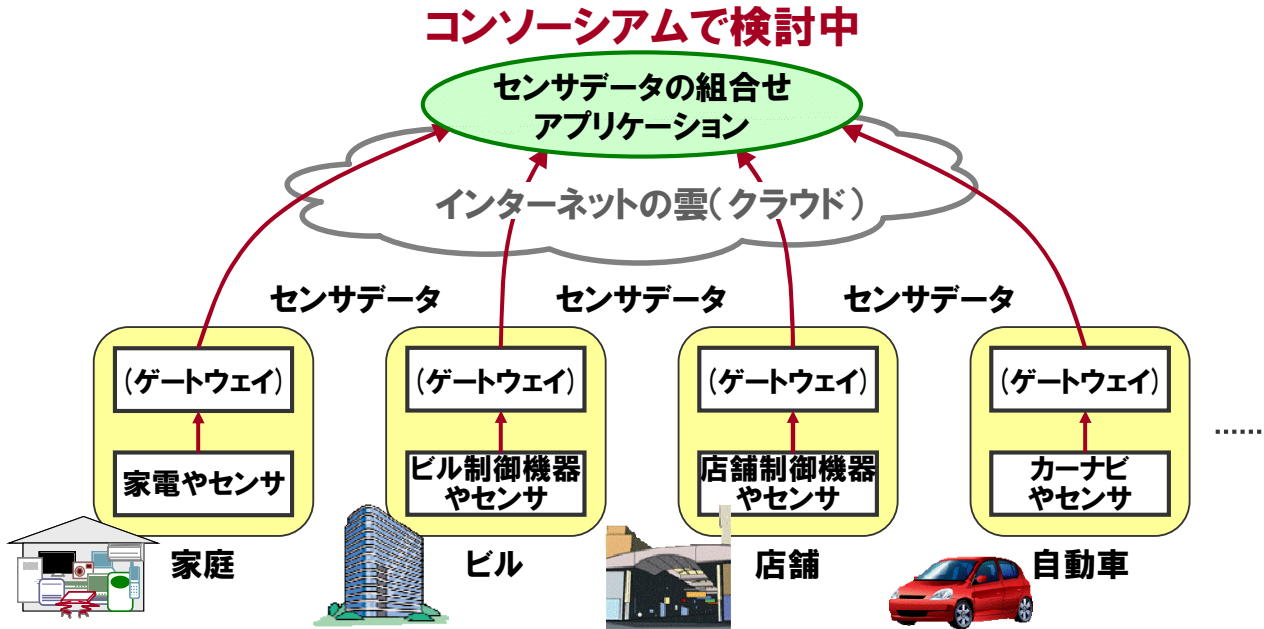
- 近年、クラウド化(インターネット上のどこかのデータセンターやサーバで処理する方式)が進展
- クラウド上のサーバに、様々なセンサデータが蓄積

ここでセンサデータをシェア



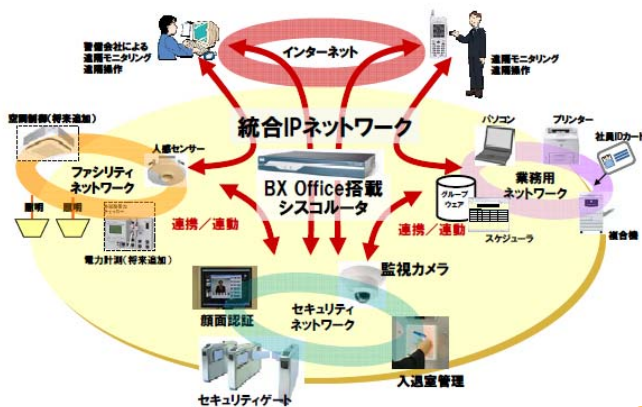
# センサデータシェアリングの期待効果

- 異なるセンサデータの組み合わせにより、新しいサービスが期待
  - 家庭、ビル、店舗、自動車など、様々な場所のセンサデータを組合せて、今までにないサービスを構築



# 参考) ユビテックの位置付け

- センサデータシェアリングの推進役かつサービスプロバイダーとして活動
  - BX-Office: ビル設備情報とオフィス情報を統合連携するプラットフォーム
  - カーシェアリング車載機: エコだけでなく移動するセンサとして自動車を活用



**BX-Officeのイメージ**

# カーシェアリング車載機のイメージ

